

平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果

● 問合せ 学校教育課学校教育係 (☎3185)

4月19日に実施された平成28年度全国学力・学習状況調査の結果が、文部科学省から公表されました。調査内容と市の調査結果の概要は次のとおりです。なお、調査結果については、市内の各小・中学校で分析し、課題を明らかにして具体的な対応策を考え、全職員の共通理解のもとで実践に移しています。

調査内容

■ 学年・教科など

- ▷ 小学校（第6学年）：国語A、国語B、算数A、算数B、質問紙（生活・意識）
- ▷ 中学校（第3学年）：国語A、国語B、数学A、数学B、質問紙（生活・意識）

■ 設問内容（AとBの違い）

- ▷ A（知識）：身に付けておかなければ、あとの学年で影響を及ぼす内容、実生活において不可欠である知識・技能など
- ▷ B（活用）：知識・技能などを実生活で活用する力、課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力など

調査結果

1 学力調査（正答率）

【下表下段：市の記号説明】

- ▷ 全国平均との比較（左側：桃色地・枠 ） ー：同程度 △：下回っている
- ▷ 県平均との比較（右側：白地・黒枠 ） ー：同程度 ▲：下回っている ※ 同程度とは0.4%以内の開き

小学校（第6学年）

	国 語		算 数	
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)
全 国	72.9%	57.8%	77.6%	47.2%
県	72.6%	56.9%	77.6%	46.2%
市	△ ▲	△ ▲	ー ー	△ ▲

市は、算数Aが全国・県平均と同程度で、そのほかは全国・県平均を下回っています。領域別では、国語は『書くこと』が、算数は『数と計算』がそれぞれ全国・県平均を上回っていますが、算数は『数量関係』に大きな課題がありました。

中学校（第3学年）

	国 語		数 学	
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)
全 国	75.6%	66.5%	62.2%	44.1%
県	74.7%	64.7%	59.3%	41.0%
市	△ ▲	△ ▲	△ ▲	△ ▲

市は、すべての教科区分で、全国・県平均を下回っています。領域別では、国語は『書くこと』、『読むこと』に、数学は『関数』、『資料の活用』にそれぞれ大きな課題がありました。

2 質問紙（生活・意識）調査

小学校（第6学年）

■ 全国・県との比較で良好だった項目

- ▷ 家の手伝いをしている
- ▷ 地域の行事に参加している
- ▷ 授業で分からないことは、その場で先生に聞いている

■ 全国・県との比較で課題があった項目

- ▷ 朝食を毎日食べていない
- ▷ 毎日の就寝・起床時刻が決まっていない
- ▷ 自分には良いところがあると思っていない
- ▷ 家庭（塾を含む）での勉強時間が少ない

【児童の家庭（塾を含む）での勉強時間別割合】

	平 日		土・日曜日	
	2時間以上	1時間未満	2時間以上	1時間未満
全 国	25.5%	37.4%	24.2%	43.1%
県	21.8%	39.3%	22.7%	43.5%
市	15.1%	48.8%	15.7%	52.4%

中学校（第3学年）

■ 全国・県との比較で良好だった項目

- ▷ 朝食を毎日食べている
- ▷ 毎日同じくらいの時刻に起きている
- ▷ 将来の夢や目標を持っている

■ 全国・県との比較で課題があった項目

- ▷ 地域社会でボランティア活動に参加していない
- ▷ 学校の規則を守っていない
- ▷ 自分には良いところがあると思っていない
- ▷ 家庭（塾を含む）での勉強時間が少ない

【生徒の家庭（塾を含む）での勉強時間別割合】

	平 日		土・日曜日	
	2時間以上	1時間未満	2時間以上	1時間未満
全 国	34.2%	32.1%	40.1%	32.0%
県	25.8%	37.3%	34.1%	32.7%
市	18.2%	50.3%	23.8%	45.3%

3 今後も市として力を入れていくこと

■ 分かる授業の展開（学校）

- ▷ 電子黒板などのICT機器を活用した授業を行う
- ▷ 課題とされる活用力を高める授業を行う

■ 家庭学習の習慣化（家庭・学校）

- ▷ 家庭での生活習慣を確立させるよう家庭との連携を深める
- ▷ 授業と結びつけた効果的な家庭学習を推進する

■ 規範意識の向上（家庭・学校・地域）

- ▷ 周囲の人に大切にされ、認められているという実感を持たせる
- ▷ 具体的な目標や将来のことを考えさせる

■ 自己有用感を高める取り組みの推進

- ▷ 成功体験を多く経験させることで自信をつけさせる

※本調査は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。



伊万里市男女協働参画懇話会 いまりプラザ

わたしもあなたも大切な存在
一人を思いやる心を育てましょう

『自己肯定感』という言葉を知ったことがありますか。自己肯定感とは、『自分は大切な存在で、周囲から必要とされている』というように、自分の存在意義を認めることです。自己肯定感があると、自分の言動に自信があるので何事にも挑戦したり、心に余裕があるので誰にでも優しくしたりすることができ、人間関係が良好になるといわれています。

しかし、内閣府の『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』（平成25年度）で、『私は、自分自身に満足している』と回答した人の割合は、アメリカが86・0割、イギリスが83・1割、日本が45・8割となっていて、日本は、自己を肯定的に捉えている人の割合が最も低くなっています。文部科学省によると、乳幼時期は『十分な自己の発揮と他者の受容による自己肯定感

の獲得』が、小学校高学年は『自己肯定感の育成』が重視すべき課題であるとしています。また、自己肯定感は、0〜6歳で土台形成されるため、この期間の親の接し方が大きく影響するともいわれています。子どもと接するときには、「あなたが大好き。あなたがいるから幸せ」という気持ちをしつかり伝え、子どもの「自分は愛されている。必要な人間だ」という自己肯定感を育てましょう。それが、自分も大切、他の人も大切という人思いやる心を育てることにつながると思います。

伊西地区高校生市議会が開催 高校生の視点で市政の課題などを議論

11月11日、市で初めてとなる伊西地区高校生市議会が市議会本会議場で開催されました。これは、公職選挙法の改正で選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことから、伊西地区の高校に通う生徒に、政治や選挙に関心を持ってもらおうと、伊万里西ロータリークラブが企画したものです。

伊万里・有田地区の高校6校から各代表4人が議員となり、一般市政に対する質問をしました。内容は、中心市街地の活性化や災害時の福祉避難所の整備といった市の課題に対する提案など多岐にわたるもの。各質問に対し、塚部芳和市長や森 哲也教育長など執行部は、実現の可能性や



↑壇上から質問する伊万里農林高校の生徒

考え方について、通常の市議会さながらに、一つ一つ真剣に答弁しました。

郷土の文化財

腰岳と黒曜石シリーズ⑨

腰岳を見直す

腰岳産黒曜石の一時貯蔵場所？

● 問合先 生涯学習課文化財係
(☎) 233186

市内には、腰岳の黒曜石こくようせきに関する遺跡が数多くあります。その中には、黒曜石の原石や、石器を作り出す前の原石に近い状態のもの、数多くまとまっている遺構（集積遺構）が確認されたものがあります。午辰遺跡うまじ（大坪町）は、



午辰遺跡で確認した集積遺構

縄文時代後期（約4000年前〜3000年前）の遺跡で、腰岳から約3・5キロ離れています。この遺跡で確認された集積遺構では、39点の黒曜石の塊が出土し、総重量は約7キありました。石材（黒曜石）の擦れた状態や形状などから、これらの黒曜石は、腰岳の黒曜石原石の採取場所であるの大きさに整えられ、袋状の入れ物に入れて運搬され、この場所に集められたと推測しています。集積遺構は、石材が石材生産地（腰岳）からどのように採取・集積され、さらに石材として、各地にどのように運ばれたのかを明らかにするための手がかりとなります。